

知床の森から

平成6年10月
第33号



北見営林支局

知床森林センター

099-41 北海道斜里郡斜里町本町11番地

01522-3-3009 FAX 01522-3-3160

本年北見営林支局知床森林センターの新規事業としてスタートしたガイド事業「知床・森林ものがたり」は、10月6日(金)もつて終了しました。スタート時点で6日間のガイド日程を計画しておりましたが、結果的に9月29日・10月6日の2日間の実施となりました。

ガイド実施場所は、両日とも知床自然観察教育林内の「自然観察コース」です。参加者は朝娘(成人)3人グループ、熟年女性の仲良し3人グループでした。

辛い天候にも耐えられました。色彩に富む秋の知床の森を、1日たっぷり楽しむために申し込んだ方々です。ゆっくり歩き小休止を何度もとり、興味と好奇心を満足させながらコースを巡りました。青森の良い所では手拭を振りまきました。好奇心はとくにキノコに向かれます。折しもシタケが採り頃で、これらのキノコの味は絶品、思わぬ森の贈り物に子供のように喜んでおりました。5時間で8回コースはゆとりがあります。

「わしら森林が好きだから」 好評「ガイド事業」知床・森林ものがたり

「際限らしいものは森の奥深くに隠れているんだあ」「自然ってほんとにいいよな」「生返ったような気分」「また来たいな」、など心境をもらしていました。こんなに喜んでもらっているなんて、私たちがとてもいいことをしているんじゃないかと思つた次第。自然を、森林を、こよなく愛している人がいる限り、今後も続けていきたい仕事です。



ホロハツの森の仲間

産 (れと産業ま)

町恒例の「しれとこ産物まつり」は、10月2日(日)晴天下で盛況に実施され、会場には各産物の展示や、お茶会、お祭りなど、盛りだくさんでした。今年度は、お祭り、お茶会、お祭りなど、盛りだくさんでした。今年度は、お祭り、お茶会、お祭りなど、盛りだくさんでした。

『森林レク』千人達成

「森林レクリエーション・in知床」は昭和63年9月に第1回としてスタートし、本年10月13・14日に実施した『紅葉の森林と海めぐり』で第24回となりました。そして今回のイベントで参加者が千人を突破しました。

千人目は14日達成となり、当日知らされた北見市のご婦人はエエッという表情でしたが、センター所長より記念品を贈呈されて大喜び、他のイベント参加者たちからも祝福されていました。

森林の中を歩く けもの道を登ったり下ったり
足元をたしなめ 汗を流し
けつて来でないのに
なぜか みんないい顔
不思議だなあ森林って



センター所長より記念品を受け取るセンター自主

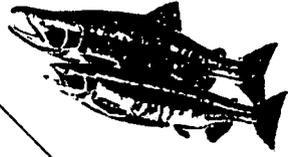
静かな知床

大角をかざしたオスジカの鳴き声が、葉を落とした森に鋭く響き渡る。一夏を飛翔したアマツバネやセキレイたちも南に去って久しい。

ニシンと見紛うほどに群来したサケ・マスも生涯最大のイベントを終え、流れ下る落葉とともに姿はない。「地の果て」にロマンを求めた多くの観光客の姿も今は少なくなり、路傍のナナカマドが赤い実を風に揺らしながら、ついでにくれる渡りの鳥を待っている。

知床の連山はうすすらと白く、頂きをかすめる雲は絹のように薄く、ときには重々しく暗い。森は褐色に変貌し、モザイク状に針葉樹が際立っている。岩壁にオオセグロカモメの群れが身を寄せ波が砕け散る。半島で誕生したオシロワシの幼鳥が、ときおり飛翔力に磨きをかけるかのように上空を舞っている。

知床はいま次のドラマを待つかのように静かである。やがてオオウシやオシロワシが来るだろう。エソシカを はじめとする鳥獣たちの生命が、眠る大地と酷寒の大気を裂いて躍動する。シンプルな冬の知床、感動を求めて訪れる人々には、野生との出会いがきつとあるに違いない。



各種調査完了

センターでは取り組んでいる各種の調査を、今年10月をもって予定どおりすべて完了しました。対象となる調査は以下のとおりです。

- 1 択伐施業指標林(林野庁長官通達)
 - 設定 昭和61年北見営林支局設定
 - 目的 択伐施業(ヘリコプター集材)の方法を理解しその後の森林の推移を見るため。
 - 特記 指標林内にミスナラポット苗植栽試験地
- 2 知床国有林におけるミスナラ堅果結実調査
 - 設定 平成元年～支局自主課題
 - 目的 知床国有林のミスナラ堅果の実態を知り北見地方におけるミスナラ林造成に資する。
 - 特記 ミスナラ堅果母樹25本を調査木に設定。
- 3 観察プロット調査
 - 設定 平成5年～センター自主課題
 - 目的 知床自然観察教育林の森林の推移を恒久的に観察し、森林インストラクターの教材として活用する。
 - 特記 林相の異なるプロットを5カ所、イベントコース沿いに設置。

自然の学ぶ

初参加者16名を交え総勢31名を1団とする第7回森林教室「森とのふれあい」を9月10日斜里町のオホーツク海沿いの湖宮防備保安林と、知床五湖で実施しました。主要テーマは「人間の営みを過酷な自然から守っている保安林のはたらき」と、「知床五湖周辺の環境に適応し、森や景観を造っている樹木や植物を観察し、森と親しむというもの」です。

保安林では森林が不可欠な理由と、森林造成に取り組んでいる営林署の仕事とその成果を紹介しました。湖風を防ぐ柵に囲まれたまだ幼い植栽木、すくすく育っている若木、すっかり森林になっている針葉樹林などを目のあたりにしました。また短く枝を張り、ドングリをたわに実らせているカシワナラの天然林、保健休養の目的をもつこの森は散策路と相まって詩的なムードに溢れています。よく目を向ければこのオホーツク海沿岸には興をそそる森がたくさんあります。

人によく知られている「知床五湖」、その景観もさることながら、景観の主要な舞台を形成する森林に目を向けることは、この景勝地をより深く実感できます。この森もまた多くのことを私たちに語りかけてくるからです。コース沿いは足を止める箇所がたくさんあります。

この知床を訪れた参加者のみなさんは初秋の知床と、「森とのふれあい」を楽しんだ一日でした。